

花に囲まれリフレッシュ —福島ハーブフェスタ—

5月3日から5月5日まで、蛙鼻公園で福島ハーブフェスタが開催されました。

毎年ハーブ研究会主催で開催していて、今年は市内外から2,000人を超える人が訪れました。

五月晴れの中、園内に植栽してあるハーブの名前を当てるウォークラリーや、公園内の池でのマス釣りを楽しみました。訪れた観光客は「美しく咲く花に囲まれ、親子共々リフレッシュできました」と話していました。



松浦メロンまつりにぎわう

毎年恒例の「松浦メロンまつり」が5月6日と7日の2日間、海のふるさと館で開催され、キンショーメロンとアールスメロンなどを販売しました。

キンショーメロンは、春先の冷え込みで昨年よりやや小ぶりながら、気温の格差で甘さは十分。市価より安いとあって、市内外の買い物客が大勢つめかけ、約2,000ケースのキンショーメロンとアールスメロンが飛ぶように売られていました。

また会場では、新鮮なメロンを遠くの知人や親せきに送ろうと、宅配コーナーにも長蛇の列ができていました。

平戸神楽を奉納

志佐町浦免にある住吉神社で4月28日、平戸神楽が奉納されました。

長崎県神道青年会松浦支部（中川明宏代表）が、地域の伝統芸能を通して国旗の掲揚を呼びかけようと開催したものです。

平戸神楽は約300年ほど前に、平戸藩の家臣が全国の神楽を研究し誕生したとされ、九州を代表する神楽として、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

この日は弓と刀の威力で災いを払う「二弓」（写真）や、相手を抱え上げて激しく回転させる「神相撲」などが奉納され、見守った地域住民約30人から大きな拍手が上がっていました。



3支部で定期総会 —松浦市身体障害者福祉協会—

平成18年度松浦市身体障害者福祉協会松浦支部の定期総会が5月3日、松浦市ふれあいセンターで開催されました。

岸田義孝^{よしただ}会長が「障害年金受給者の生活は厳しい状況にあります。障害者の立場を考え、合併して良かったと思える市になって欲しいと思います」とあいさつ。参加した会員や関係者約60人は、今年度の活動方針や行事計画などを確認しました。

また、福島支部、鷹島支部でも総会を開き、6月17日の同協会代議員総会では、今年度の協会活動方針や行事計画などを決定します。



踊りで交流 —モンゴル村ちびっこまつり—

モンゴル村ちびっこまつり（鷹島公社主催）が5月4日、モンゴル村で開催されました。

ヨサコイ踊りを通して子どもたちの交流を深めようと、「子どもの日」にちなんで開催されたものです。

この日は、鷹島町ソーラン隊の子どもたちで結成された「鷹島ヨサコイ踊り鷹」が、ヨサコイ踊りやテレビで人気のダンスなどを披露したほか、佐賀県基山町から、ヨサコイ踊り大会で数々の優勝経験をもつ「美勝女隊^{びしょうじょたい}」の子どもたちも踊りに加わり、交流を深めました。



和船競漕で熱戦

鷹島町阿翁浦地区の伝統行事で「せいぐろ」と呼ばれる和船競漕大会（和船競漕保存会主催、瀬戸正義会長）が5月5日、阿翁浦港で開催されました。

地域の活性化や豊漁、子どもの健やかな成長を願って毎年「こどもの日」の5月5日に開催。平成5年に旧鷹島町の無形民俗文化財に指定されています。

今回は、阿翁浦地区を中心に市内から24チームが参加。和船に約10人が乗り込み、往復300^ルのコースでタイムを競いました。約1,000人の観客が見守る中、選手たちは熱戦を繰り広げました。

上位の結果は次のとおりです。

- ①阿翁浦地区9、10組（3分16秒）
- ②阿翁浦地区7、8組（3分21秒）
- ③新松浦漁協A（3分23秒）

ツツジをバックにイベントにぎわう —不老山花と光のフェスター—



4月15日から30日まで「第10回不老山花と光のフェスタ」が開催され、期間中市内外から約3万人が訪れました。

また、23日、29日には、グラウンドゴルフ大会や各種ステージイベント、スケッチ大会、葉草ハイキングなどが行われ、訪れた人たちはツツジをバックに各イベントを楽しんでいました。

グラウンドゴルフの上位の結果は次のとおりです（敬称略、（ ）はチーム名）。

- ①金嶽秋男（鷹島三里）②富本眞澄（里不老会）③富本丸子（里不老会）④前田美智子（駅通り）⑤片山松雄（殿之浦）

